



鉄砲館だより

種子島開発総合センター

☎2313215

ぶんぶん文化財

Cultural property

【第7回】 飛鳥寺の西の槻（けやき）

奈良時代に成立した日本書紀は、養老4年（720年）に完成したとされる日本最古の歴史書（正史）です。その日本書紀の中で、初めて種子島に関する記録が登場するのは「天武6年（677年）2月、飛鳥寺の西にある槻の木の下で、種子島の人らをもてなした」という次の記述です。

天武六年二月 是月饗多禰嶋人等於飛鳥寺西槻下

飛鳥寺跡（奈良県明日香村）は、日本最古の寺跡として国の史跡に指定されており、明日香村教育委員会では飛鳥寺西方遺跡の発掘調査を長年続けています。今年3月には、写真の場所が「槻の木の広場」の最有力候補地であるとの報告が

なされました。木の痕跡は発見されていませんが、敷き詰められた砂利の欠落した部分が、木のあった場所ではないかと推測しています。

種子島の人々が1300年以上も前に訪れたこの広場は、乙巳の変（大化の改新）で有名な中大兄皇子と中臣鎌足が出会った場所でもあります。

明日香村教育委員会では、今後、写真中央に立つ五輪塔「蘇我入鹿の首塚」の下を発掘することにより、さらに明らかになるだろうとしています。

種子島の人々が見た当時の景色は、どのようなものだったのでしょうか。今後の更なる調査研究が楽しみです。



【写真提供】明日香村教育委員会